

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26861833

研究課題名(和文) 離島僻地住民を対象とした口腔健康状態とADLおよびQOLとの相関性の検証

研究課題名(英文) A survey of dental problems for the residents of remote island. -Correlative analysis between oral health, ADL and QOL-

研究代表者

井川 一成 (IIGAWA, Kazunari)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(歯学系)・助教

研究者番号：80584739

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：平成25年度に学内研究費にて実施した先行調査(口腔環境、全身的QOL・ADL、歯科関連QOL・ADLについて聞き取り調査および質問票調査、口腔診査)の結果を評価し、全国平均と比べ、DMFT歯数、喪失歯率、いずれも高い傾向にあることが明らかになった。歯科関連QOLについては残存歯数が多く適合良好な補綴物を使用している場合に高い傾向にあることが明らかになった。

以上の結果に基づき平成26年度に日本歯科保存学会第141回学術大会にて発表を行った。平成28年度に、追跡調査として、平成25年度実施と同項目について、65歳以上高齢者を対象として調査を実施し、初年度の結果を加味した上で現在比較評価中である。

研究成果の概要(英文)：Conference presentation was performed at the 141st meeting of the Japanese society of Conservative dentistry based on the result of the priority review in 2013.
In 2016, Follow up study for the elderly population was carried out.

研究分野：歯科保存学

キーワード：社会歯科学

4. 研究成果



対象者年齢分布

	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54
伊福貴町	1	1	0	1	1	0	0
本郷町	0	0	0	0	0	0	2

	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-
	5	3	3	3	4	9	10
	1	0	1	1	8	2	4

合計: 60名

平成 25 年にアンケート調査および口腔診査を実施し、60 名について調査結果が得られた。

口腔診査の結果、概ね全国平均より DMFT 歯数は多く、とくに喪失歯数については高齢者で高い傾向を示した。

DMFT 歯数

	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54
伊福貴町	8	1		12	22		
本郷町							17
梶島	8	1		12	22		17
全国	5.9	8.5	10.7	11.9	12.7	15.2	16.2

	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-
	17.4	26	16	23.67	24.5	27.11	27
	9		24	28	25.88	25	28
	16	26	18	24.75	25.41	26.73	27.29
	17.5	18.1	18.9	21.1	22.9	24.2	26.5

これについては歯科的エピソード調査の結果、かつて歯科受診回数低減の為の便宜的処置として抜歯が選択されてきたことが明らかになっており、このことを反映した結果であると考えられる。

また、補綴物、歯冠修復物による処置は多くなされているにも関わらず高い歯周病有病率を示していることから、定期的歯科受診による口腔環境の維持が十分になされていないことが明らかになった。

喪失歯数

	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54
伊福貴町	0	0		0	4		
本郷町							2.5
梶島	0	0		0	4		2.5
全国	0.1	0.2	10.4	0.5	0.9	1.5	2.6

	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-
	3.6	13	2.66	10.66	24.5	18.22	24.6
	2		7	15	22.13	25	28
	3.33	13	3.75	11.75	19.58	18.18	25.57
	4.1	5.9	7.2	11	12.7	16.1	19.7

口腔関連 QOL の指標である GOHAI につ

いても、全国平均値は 53.1 であるが、本郷町では 50.7、伊福貴町では 51.6 と低い値となった。これは梶島住民における喪失歯数の多さから、歯の喪失に伴う咀嚼機能の低下を反映した結果であることが考えられる。今回の調査の結果、義歯補綴を含めて良好な臼歯部咬合支持を有するものに、より高い GOHAI 値が得られたことから推測することが出来る。

GOHAI(0-60)

	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-
伊福貴	60	60	43	52.4	53.17	48.43	51.47
本郷				55	33	47.89	55.67
梶島	60	60	43	53.375	50.285	48.125	52.48
全国	53.3	54.3	53.7	52.2	52.6	50.8	

2 町の比較の結果、前述の通り DMFT 歯数（とくに喪失歯）および Periodontal Index について本郷町では高い値を示している。伊福貴診療所への歯科受診者数については平成 26 年 7 月現在、伊福貴町から 33 名、本郷町では 6 名となっており大きく異なっていることから、歯科サービスに接触する機会の多寡が影響している可能性が示唆された。

IADL については本郷町が高い結果が得られたにも関わらず、口腔関連項目については伊福貴町が良好な結果となった。このことから、伊福貴町では、加齢による身体機能の低下からセルフケアによる口腔環境の維持がむずかしくなった場合でも、歯科診療所への定期的受診により口腔機能が良好に維持されていることが推察され、離島を含む僻地における歯科医療支援体制の確立が、生命維持に直結する口腔機能および QOL の維持・向上に有用であることが示唆された。

調査項目平均の 2 町比較

	GOHAI	DMFT	喪失歯数	未処置歯	IADL	PI
伊福貴町	51.73	22.9	13.88	1.22	10.9	1.88
本郷町	50.68	24.42	18.63	1.16	11.82	2.28

さらに平成 25 年度調査の結果を踏まえ、同項目の調査を平成 28 年度に実施した。なお、追跡調査については前回調査の結果、全国的な平均と比較して特徴的な結果の得られた 65 歳以上の高齢者を対象として実施した。本郷町にて 7 名、伊福貴町にて 13 名の結果が得られており、平成 25 年調査からの結果に加えて評価検証を行っている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

井川一成(代表者) 林善彦

離島・僻地における歯科の役割(五島市
椴島における実態調査)第2報

日本歯科保存学会第141回学術大会

2014年6月9・10日、山形テルサ(山形
県山形市)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井川 一成 (IGAWA, Kazunari)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(歯学
系)・助教

研究者番号: 80584739

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

林 善彦 (HAYASHI, Yoshihiko)

福田 英輝 (FUKUDA, Hideki)